



平成 19 年 9 月 1 日

第 181 号  
清野新聞社

### 上芭露中学校卒業四〇周年 記念クラス会

#### 一 趣旨

私たちは昭和四十二年（一九六七年）の春に上芭露中学校を卒業したので、今年はこちらで卒業四〇周年になります。

上芭露も明治四十一年の開校が開基としてのことから今年が開基開校百年ということで四月に記念行事が行われました。

上芭露は全盛時代は個数二百戸、人口も千人以上の集落でしたが、今は約八分の一以下にまで減って、中心市街地はほとんど消滅してしまいました。

私たちの同級生で村に残っているのは一人だけです。離農など家族で村を出て行った人は実家もありません。両親が残っている者でも皆高齢化し、故郷へ帰省することも少なくなってきました。しかし、私達にとって上芭露が

#### 二 経緯

また五十歳を過ぎて比較的  
自由な年代になってきたこと  
から、今回、全国に散らば  
った同級生に連絡を取って、  
第一回のクラス会を開催する  
こととしました。

もちろん、今までも折りにつ  
け遠軽や札幌では近傍の者で時々集  
まっていたのですが、全国の皆に声  
をかけることはできませんでした。  
昭和四十八年、昭和六十二年は



卒業二十  
年です。  
平成三  
十三年は  
小学校の  
閉校式  
の後に  
近隣者  
で集ま  
りました。  
その際  
に節目  
として  
作成し  
た。

唯一の故郷であるこ  
とは永遠に変わりま  
せん。今後、故郷に  
幼なじみが集う機  
会はクラス会しか  
なくなるかもしれません。

名簿（葉参  
照）も残つ  
ています。  
ちようと  
三年前に遠  
軽で集ま  
ったときに珍  
しく十人前  
後が集まり  
皆の消息を  
話し合いま  
した。



その場で、皆、どうしているだ  
らう？会いたいね！ということに  
なり、改めて考えてみるとうす  
卒業四十年ということで開催が決  
まったのです。女性は多くが子育  
ても終わり、何人かは孫も出来た  
人もいますが、勤務者もいるので、  
休暇の取りやすいお盆休みに遠軽  
周辺でということにしました。

#### 三 プレクラス会

クラス会の準備として、まず名  
簿の最新改訂が必要です。あちこ  
ち聞いてみても実家もないなどか  
ら、数名は把握できないまままし  
た。

住所は確認できても、四十年間  
全く会ったことのないのに顔も解ら  
ないのでと不安に思う人、途中  
で村を出たために正確には卒業生  
でないということで遠慮する人も  
いたようです。そのため、まず近  
傍者で会ってみようということに

しました。  
今年の一月二十七日（土）には  
最も遠い名古屋周辺で声をかけた  
ところ、夫婦での参加もあり、大  
変楽しい会となりました。  
続いては四月二十一（日）に東  
京で開催したところ、名古屋周辺  
の皆も駆けつけてくれて、賑やか  
な会になりました。

#### 四 準備

準備段階で多くの人と連絡しあ  
い、懐かしい出会いや  
話が出来ま  
した。  
早くから  
出席予定だ  
ったのに直  
前になって、  
家族が急病  
で入院した  
り、仕事の  
所用でこれ  
なくなった  
人もいまし  
ました。AK  
先生やAN  
先生からは  
丁寧な手紙  
を頂きました。  
AK先生  
からは宴会  
の直前に会  
場まで皆に  
ヨロシクとの  
電話を頂き  
ました。  
スライドの  
編集に当た  
ってはI君  
とTさんに  
昔のアルバム  
を借用しま  
しました。



記念植樹については、K君やN  
君に役場等との調整、苗木の手配  
などを、Iさんには資材、技術指  
導で世話をかけました。

記念樹の銘木についてはM先生にお盆前の忙しいときに揮毫をお願いしました。

五 クラス会模様

当日は前日までの雨も上がり、晴天です。

五時頃には集まりはじめ、本当に四〇年ぶりの人には、再会の歓声があがりました。風貌や体型が大きく変わり、最初は誰だったかなど思う人もいましたが、多くは保育所、小中学校と十一年間も一緒だった幼なじみのこと、すぐに思い出して大騒ぎでした。皆それぞれに同じく年はとってしまいましたが、元気そうなのが何よりです。

クラス会は予定の六時過ぎに開会。M先生、K先生にも参加いただき、挨拶などを頂きましたが、大変お元気でした。四十年はあまりにも昔で忘れたことも多いのではないかと、アルバムからスライドを作成して試写会をやりました。昔の幼い自分に再会して感慨一潮でした。

その後、各自から順番に近況報告を行い、酒も入って盛り上がりました。結局、予定を一時も超過してしまい、帰る人もいるので九時頃に、最も遠い岐阜から家族で参加したI君の音頭で中締めとしました。皆まだまだ話足りない様子だった

たので引き続き幹事部屋に料理や酒を持ち込んで二次会です。昔からそうだったのかもしれないが女性陣のたくましさを実感させられました。男性陣は日付が変わると飲み過ぎかややお疲れとなってきたので、翌日の記念植樹の作業も考えて、午前一時を大幅に過ぎてしまいましたが散会としました。

六 記念植樹

クラス会として皆の共通の思い出を残しておこうということで、学校跡地に記念植樹をすることにしました。桜の木を三本、閉校記念碑の周辺に植えました。

上芭露が、一人一人が、これからも長い歴史を積み重ねることにあります。小さな苗木ですが、いつの日か大木となって末永く上芭露を見守ってくれることを期待しています。私たちも上芭露を訪れる度に桜の木の成長を見続けたいと思います。

炎天下の中でしたが、わいわい言いながら何とか作業が進み、植栽後、添え木をして、水をまき銘木を設置しま



マ湖方面へドライブし、志布志の浜や買い物などを楽しんだ後、再会を約束して別れました。

七 今後に向けて

今回のクラス会は宴席の雰囲気としては五年後、ちょうど六十歳、還暦祝いを皆でやろうという意見が多かったようです。

今後、より良いおジイちゃん、おバアちゃんをめざすためには、人生の原点である幼なじみの交流は大切です。今回のクラス

上芭露の戸数と人口の推移

年	明治35~40年	大正3年	昭和10年	昭和20年	昭和30年	昭和40年	昭和52年	平成3年	平成19年
戸数	38	75	171	200	180	145	128	97	55
人口			950	1,100	1,022	480	400	277	130

した。最後に記念樹の前で、皆で記念写真を撮るとして現地で解散としました。その後も希望者は

会をきつかけとして各地域毎に近隣者等で年一回程度はやりたいものです。



上芭露開基100年記念事業実行委員会(井上剛会長)では、4月1日に上芭露開基100年記念碑の除幕式と記念式典を行いました。同委員会では、記念事業として上芭露神社前に記念碑を建立したほか、神社の改修や記念誌を発刊しました。

軒を連ねにぎわっていました。およそ100名の住民が参加した記念式典では、井上会長は「開基100年を迎えることができ、苦勞してこの上芭露の地を開拓した先人に感謝します。現在では、人口も減り約130人となりましたが、当時の開拓者精神は今でも受け継がれています」と挨拶し、100年の節目を祝いました。



先人の苦勞と遺業に感謝  
上芭露開基100年記念碑  
除幕式・記念式典